外注化阻止ニュース　第２６０号
〔発行日〕２０１６年５月４日
〔発　行〕動労千葉を支援する会
千葉市中央区要町２－８ＤＣ会館
http://www.geocities.jp/kanemasa1616/
ＪＲの業務外注化と非正規雇用化に反対するニュースです。感想や意見、現場の情報をお寄せ下さい。dc-info@deluxe.ocn.ne.jp

籠原駅 漏電・炎上 48年前のがいし

メンテナンス合理化で大事故に

明らかに危険な状態だった

ＪＲ東日本は３月24日付『安全速報』で、３月15日に発生した籠原駅（埼玉県）の漏電・炎上事故について次のように説明しています。

これまで会社は碍子（がいし）（絶縁体）について「寿命は20～25年」と説明していました。ところが当該がいしは68年製（48年前）で、実際の設置日については「調査中」だというのです。

台帳上にある「91年設置」としてもすでに25年がたっています。周辺のがいしをすべて交換しなければならなかったことからも、いかに危険な状態だったのかは明白です。

『安全速報』による説明（動労連帯高崎ＮＥＷＳより）

【原　　因】
・き電線のがいしが何らかの原因で損傷し、き電線を流れる電流が漏電して、各種設備を損傷したと思われる【詳細調査中】。

【列車影響】
・運休９９６本　遅延４５１本　総遅延時分３７１４１分。

【付　　記】
1直近目視検査は２０１５年５月１９日に実施し異常なし。当該がいしは１９６８年製。台帳上は１９９１年設置となっていたが、実際に現場にいつ取り付けられたかは調査中

2復旧作業
・至近点検及びがいし２０箇所点検（全２０箇所取替）、また１２４箇所点検を行い１９箇所取替
・籠原駅電源切替機４台取替

3上記以外の損傷個所
・列車の進路を制御する「連動装置」ほか「信号機器」が損傷（３箇所）、「踏切保安装置」損傷（３箇所）、信号機器室・信通機器室・踏切器具箱（３箇所）、その他多数

「高抵抗地短絡」で被害拡大

今回の漏電は、電気抵抗の高いコンクリート電柱を伝ったものでした。そのため変電所ではモーターに電気が流れたときと区別がつきません。

「高抵抗地短絡」と呼ばれる現象で、現場では激しいショートが起きているのに、電気を遮断できない状態が続くのです。

これが大事故につながることは知られていました。対策は研究されていましたが、実用化はまだされていません。

ならば、要員を十分に確保して現場での点検に力を入れるべきです。しかし、電力など設備関係の業務は次々に外注化され、要員は徹底的に減らされてきました。

外注化とメンテナンス合理化が、「一歩間違えば大惨事」の大事故を招いたのです。